

令和 6 年 6 月 27 日現在

機関番号：32413

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2019～2023

課題番号：19K23252

研究課題名（和文）都市部若年非正規労働者による労働組合実践のビジュアルエスノグラフィー

研究課題名（英文）Struggling to Labor: Visual Ethnography of Young Disobedient Workers

研究代表者

岩館 豊（Iwadate, Yutaka）

学校法人文京学院 文京学院大学・人間学部・助教

研究者番号：50852472

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研では、都市部非正規労働者として働く若者たちによる労働組合実践とその経験内容について、ビジュアルエスノグラフィーの手法を用いて明らかにすることを試みた。主たる成果として、「物流倉庫」「事務所」「カフェ」「路上」という複数の社会空間の連関という視点から、労働組合実践の重層性を記述していくアプローチを確立したまた、労働組合という社会的装置がいかにかに作動するのかを、映像資料を用いてその物質的・存在論的な水準から記述していく道筋をみいだすことができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義としては、従来の労働運動研究における社会運動論アプローチの蓄積を踏まえつつ、社会的装置としての労働組合が作動していく力学を、その個々人の生きられた経験の物質的・存在論的水準から記述していくアプローチから明らかにしたことにある。その成果は、不安定な労働環境・条件や過重な労働という現代社会が抱え続ける課題に対し、労働組合という社会装置を有効かつしなやかに活用していくための知見を提供している、という点で社会的な意義をもつと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The visual ethnography project of "Struggling to Labor" reflected on resistances of young precarious workers in a global capital city Tokyo as part-time workers. Based on fieldwork with video camera for 8 years since 2008 to 2016, "Struggling to Labor" describe the their practice of labor union, embedding in some urban spaces. their labor union practices can be articulated to some urban social spaces; Distribution center, office of Individual-based labor union, cafe and street. Visual documentations and ontological analysis on these material practice is essential to understand their lived-experience. In this collective action yearning for daily bread and dignity, to analyze the dynamic configuration of urban social spaces and workers is to essential for sociological inquiry.

研究分野：都市社会学

キーワード：ビジュアルエスノグラフィー 労働組合実践 都市空間 社会的装置

1. 研究開始当初の背景

2008年のリーマン・ショックに端を発する経済危機は、現代資本制が内包する脆弱性と暴力性をまざまざと明らかにした。とりわけ資本制の核たる賃労働において、非正規雇用の拡大によって厚みを増した不安定層を直撃し、その生存の基盤を破壊していった。こうした社会状況のもと、不安定な雇用・生活条件を改善していくために、労働組合とくに個人加盟型ユニオンの機能が注目され、若者や女性、移民といった担い手による、「労働」をイシューとした社会運動が活発化してきた。社会(科)学において、労働問題とその担い手たる労働組合の研究は分厚い蓄積があり、その意味で「古くて新しい」研究課題である。では、現代の「労働」をめぐるイシューの何が「古くて」、何が「新しい」のか。「労働」をめぐる社会問題がもつ現代的な位相と通歴史的な位相とを、具体性にねざしながら丁寧に腑分けしていくことが、現代社会分析の重要な課題となっている。

2. 研究の目的

労働組合とくに個人加盟型ユニオンについての社会学研究は、近年その集合行為や社会運動としての側面が着目され、日本含め世界的に取り組み蓄積がなされている。しかし、労働組合は、その社会的な交渉力が法的に強く保障されているという点で、他の社会運動と比べて独自の性格をもつ社会的な「装置」でもある(道場親信, 2008, 『抵抗の同時代史』人文書院.)。この労働組合という「装置」が、職場において何らかの問題に直面した個々の行為主体によって、実践されていく過程について、その具体性の内部へと立ち入った分析と考察は十分になされてこなかった。労働組合実践の過程では、いかなる力学が作動し、そこに参与する個人や社会へどのような作用が生じているのか。本研究課題の核心となる「問い」はここにある。

本研究では、労働組合実践を、一般組合員などのヒト、労働基準法といった労働法制、組合専従がもつ専門知識、組合事務所やカフェといった空間、旗やトラメガといったモノ、これらの複合からなる社会空間の生成としてとらえ、ビジュアルエスノグラフィーの手法によって描き出し、その動的な力学と作用とを明らかにすることが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、第一に、労働組合実践の動態性や多義性をとらえるために、Actor-network theory に代表されるヒト・モノ関係を視座に入れた理論的視角を導入した。すなわち、労働組合実践を、一般組合員などのヒト、労働基準法といった労働法制、組合専従がもつ専門知識、組合事務所やカフェといった空間、旗やトラメガといったモノ、これらの複合からなる社会空間の生成としてとらえ記述・分析した。

第二に、経験的手法として、労働組合実践の過程を記述・分析していくうえで、本研究ではビジュアルエスノグラフィーの手法をとった労使関係をめぐる制度言語へと翻訳されざるものをとらえるにあたっては、行為者によって発話された言説の分析に加えて、行為者の表情やふるまい、そして当事者が製作する T シャツや旗といったモノの存在が大きい。こうしたモノと行為者との関係性からなる意味世界は、テキストデータ化することが難しく、映像による記録と表現の手法をとることで新たな知見を得ることができると考えた。

第三に、本研究では、首都圏で活動した個人加盟型ユニオンの一分会を事例としたモノグラフ的研究に従事する。この事例について、2008年から2016年まで実施した映像フィールドワークにもとづいて、収集したデータの分析を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は次の通りである。

(1) 交渉主体化過程の分析

事務所での観察や収集した資料(「団体交渉申入書」等)をもとに、職場で困難に直面した若者たちが交渉主体へとになっていく過程を、組合専従による解釈枠組みの提示と当事者による身体化との連鎖から明らかにした。職場における若者たちの怒りは、様々な社会空間における関係性の中で、その都度表出されて、その意味内容は多重性を持つ。ここでの交渉主体化は、組合専従との相互行為を通じて、その怒りの多重性が整除され、「権利主体」と

して生起していくことを明らかにした。

(2) 制度言語への「翻訳」過程分析

労働委員会での観察や収集資料(「不当労働行為救済申立書」等)をもとに、「差別」に対する若者たちの多重な怒りが、労使関係をめぐる制度言語へと「翻訳」「標準化」されていくプロセスを明らかにした。このプロセスを通じて、若者たちは「権利主体」として自己提示を強化していく一方で、個々人のもつ個別・具体性は、労使関係を調整する制度枠組みのもとに平準化されることによって、分離されていく作用が働くことを明らかにした。

(3) 怒りの非制度的表出回路の生成過程分析

労使関係をめぐる制度言語からは排除されたものは、しかし、行為者たちによって別の労働組合実践へと向かう契機となる。ダンスや T シャツ製作といった身体やモノに着目しながら、当事者の怒りが非制度言語的に表出される空間の生成過程を明らかにした。職種や業種が異なる非組合員の(あるいは名前も知らない)行為者や T シャツやスケートボードといったモノとの間の関係性から、非制度言語による怒りや生の様式の表現と、それにねざした「連帯」の関係が生成されていく。ここでの「連帯」は、制度的裏づけをもたないという意味で「一時的」なものではあるが、しかし、情動レベルでの存在論的な「たしかさ」をももっていることを明らかにした。

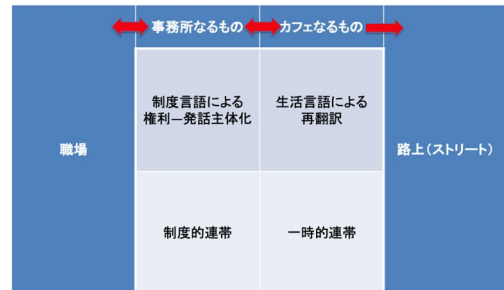
(4) 社会空間の布置連関

本研究では、労働組合実践を都市空間に埋め戻して考察・記述した。それにより、若者たちの労働組合実践におけるカフェなるものは、職場や事務所なるもの、そしてストリートなるものとの間の差異をはらんだ布置連関のなかへ置いてはじめて、その意味世界が浮かび上がっていた。そして、それらの連関から生じてくる緊張や葛藤をはらんだ過程が、労働組合実践の動態をなしているのである。

(5) ビジュアル調査資料の保存

本研究ではビジュアル調査資料の保存に向けて、ミニDVテープのデジタル化を行なった。質的データの調査アーカイブは、まだその議論が始まったばかりであるが、ビジュアル調査の資料は、その情報量の豊かさゆえに、社会的な記録としても価値をもつ。他方で、個人情報をはじめとして、その取り扱いにはより慎重さが求められる。本研究では、そのための第一歩として、デジタル化を行い、社会的共有のための基盤整備を行なった。

労働組合実践における 諸空間の布置連関



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Iwade Yutaka
2. 発表標題 Struggling to Labor: Visual Ethnography of Young Disobedient Workers
3. 学会等名 International Visual Sociology Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Iwade Yutaka
2. 発表標題 Urban Construction of Young Disobedient Workers: Struggling to Labor
3. 学会等名 International Sociological Association・ISA Forum (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩館豊
2. 発表標題 一時的な連帯のたしかさ 新宿・独立系カフェにおける若年非正規労働者の相互行為分析
3. 学会等名 日本都市社会学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

研究成果として、2つの共著書籍への原稿掲載が内定しており、2024年度中に刊行される予定である。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------